

## 予 算 決 算 委 員 会 会 議 録

1. 日 時 平成30年12月19日(水曜日)  
午前10時00分～午後1時59分
2. 場 所 委員会室(議場)
3. 出席委員 猶野智和委員長 下井克己副委員長  
竹岡昌治委員 徳並伍朗委員  
秋山哲朗委員 安富法明委員  
岩本明央委員 山中佳子委員  
三好睦子委員 高木法生委員  
岡山隆委員 秋枝秀稔委員  
戎屋昭彦委員 杉山武志委員  
末永義美委員 荒山光広議長
4. 欠席委員 なし
5. 出席した事務局職員  
綿谷敦朗 議会事務局長 大塚 享 議会事務局長補佐  
篠田真理 議会事務局主任
6. 説明のため出席した者の職氏名  
篠田洋司 副市長 石田淳司 市長公室長  
田辺剛 総務部長 藤澤和昭 総合政策部長  
繁田誠 総合政策部次長 大野義昭 市民福祉部長  
志賀雅彦 建設農林部長 佐々木昭治 総務課長  
竹内正夫 財政課長 中村壽志 管理課長  
中嶋一彦 市民課長 内藤賢治 地域福祉課長  
河村充展 高齢福祉課長 市村祥二 農林課長  
岡崎堅次 教育長 金子彰 教育委員会事務局長  
西田良平 観光商工部長 白井栄次 観光商工部次長  
松永潤 消防長 有吉武士 消防次長  
西村明久 教育総務課長 秋本勝彦 生涯学習スポーツ推進課長
7. 会議の次第は次のとおりである。

午前10時00分開会

○委員長（猶野智和君） おはようございます。昨日の休憩前に続き、委員会を開きます。

休憩前に資料の請求がありましたが、この件に関連し、市長より議長に対し、提出議案の原案修正の申し出がありましたので、この際、暫時休憩いたします。

午前10時02分休憩

---

午後 1時00分再開

○委員長（猶野智和君） 休憩前に続き、委員会を開きます。

先ほどの本会議において、議案第122号平成30年度美祢市一般会計補正予算（第5号）のうち、10款教育費・1項中学校費・3目学校施設整備費、説明欄005中学校空調整備事業は——中学校空調設備整備事業は、修正が承認されたところであります。

それでは、議案第122号平成30年度美祢市一般会計補正予算（第5号）についての質疑を続けます。岡崎教育長。

○教育長（岡崎堅次君） 委員長のお許しをいただきましたので、ここで発言させていただきます。

まず、最初に、この12月臨時議会において、中学校のエアコン設置にかかわる補正予算で混乱を招いてしまったことを、教育委員会としまして、市民の皆様、市議会の皆様におわび申し上げます。

中学校の空調設備設置事業を進めるに当たり、多くの議員の皆様から御指摘をいただきました。

今後、業務用エアコンと家庭用エアコンの財政負担や性能などの比較、市内6校の中学校整備を視野に検討し、1月の臨時議会において再度提出させていただき、皆様に十分な御納得がいただける説明ができるよう、今後取り組んでまいりたいというふうに思っております。

以上でございます。

○委員長（猶野智和君） それでは、議案の説明をお願いいたします。竹内財政課長。

○財政課長（竹内正夫君） それでは、一般会計予算（第5号）の原案修正について御説明を申し上げます。

このたびの修正は、一般会計補正予算（第5号）第1条中の「総額に歳入歳出それぞれ5,792万2,000円を追加し」を「総額から歳入歳出それぞれ798万9,000円を減額し」に、「171億8,011万4,000円」を「171億1,420万3,000円」に改め、第3条中の「追加」を削り、第1表歳入歳出予算補正及び第3表地方債補正につきましては、こちらの議案の第1表歳入歳出予算補正につきましては、今お送りいたしました2枚目のところがございますが、歳出につきましては、10款教育費・3項中学校費におきまして、6,591万1,000円を修正後ゼロ円とし、歳入につきましては、14款国庫支出・2項国庫補助金を2,151万9,000円から755万2,000円に修正、18款繰入金・1項基金繰入金につきましては、7億420万5,000円を7億444万9,000円に、21款市債・1項市債につきましては4,820万円を350万円の減額とするものであります。

1点訂正させていただきたいところがございます。18款繰入金・1項基金繰入金につきましては、原案についてはマイナス7億420万5,000円を、修正後はマイナスの減額の7億440万9,000円と訂正させていただきたいと思えます。

続きまして、第3表の地方債補正につきましては、中学校施設整備事業債の追加を削除いたしまして、修正後は、1廃止として、災害援護資金貸付事業債350万円のみの方債の補正となります。

説明は以上でございます。

○委員長（猶野智和君） 説明が終わりました。それでは、質疑を続けます。質疑はございませんか。（発言する者あり）そうです。この議案122号に関して――三好委員。

○委員（三好睦子君） お尋ねいたします。

23ページの中ほどの社会福祉費ですけれど、人件費が625万の減と、同じく25ページで人件費が794万の減ということは、社会福祉関係の職員さんの数が少なく――職員数が少なくなったということなのではないでしょうか。お尋ねします。

○委員長（猶野智和君） 佐々木総務課長。

○総務課長（佐々木昭治君） 三好委員の御質問にお答えいたします。

こちらにつきましても、職員の人事異動に伴う人件費の差額を補正しておるもの

でございますので、人数的には変わらないと考えております。

以上です。

○委員長（猶野智和君） ほかにございますか。山中委員。

○委員（山中佳子君） 補正予算書5ページになります。

債務負担行為ですが、消防庁舎・消防防災センター整備事業の業務委託料として1億円組まれておりますが、今、この消防庁舎・消防防災センターの整備事業は、どの程度まで進んでいるのか説明していただきたいと思います。

○委員長（猶野智和君） 松永消防長。

○消防長（松永 潤君） 山中委員の御質問にお答えをします。

消防庁舎・消防防災センター整備事業の進捗状況についてであります。

消防庁舎・消防防災センター整備事業につきましては、平成29年の9月に基本構想を策定しました。

それから、平成29年12月に基本計画を策定し、本年度予算に予定地の測量調査を計上しております。これは予算計画書、予算書の中の主要事業として掲げ、建設予定地の測量設計を行っておる状況です。

今回、債務負担行為を行いますのは、設計に係るプロポーザル業務を行う上で債務負担行為が必要となりますので、債務負担行為を議案に上げたところであります。

以上です。

○委員長（猶野智和君） よろしいですか。山中委員。

○委員（山中佳子君） 今度、移転場所なんですけれども、住民説明会や何かはもう終わってるんでしょうか。

○委員長（猶野智和君） 松永消防長。

○消防長（松永 潤君） 山中委員の御質問にお答えします。

庁舎の移転整備にかかわる住民、市民の皆様への説明会の状況です。

まず、平成29年の9月に基本構想を策定したのちに、大嶺高校周辺地区区長に御挨拶を行いました。これは協力のお願いであります。

そののち、平成29年12月に基本計画の素案を策定したのちに、大嶺高校周辺の全住民宛てに、消防長名で協力の依頼文書を発出いたしました。

その際に、住民説明会の開催の調整を行い、平成30年1月に、特に地域が隣接をしております吉則上地区の住民説明、そして、30年の4月に吉則下地区の住民

説明を行ったところであります。

以上です。

○委員長（猶野智和君） 山中委員。

○委員（山中佳子君） その際に、どのような御意見が出ましたでしょうか。

○委員長（猶野智和君） 松永消防長。

○消防長（松永 潤君） 山中委員の御質問にお答えをします。

住民説明会の際の御質問については、サイレンの音や防災ヘリコプターの緊急時、離着陸場に対する影響等についての御質問がありました。

さきの議会等でも御説明をいたしましたように、サイレンの吹鳴については可能な限り対策をとる。また、緊急時ヘリポートについても、運用の必要性について説明をし、おおむね理解をいただいたものと考えております。

以上です。

○委員長（猶野智和君） 安富委員。

○委員（安富法明君） 今の質疑の関連ですが、一応、私はこの大嶺地区といいますか、美祢地区といいますか、旧美祢地区ですか——の出身ではありませんから、いろいろと細かな事情とかはわからないところがあるんですが、今度の消防庁舎の建設地は、文教エリアっていいですか、教育文教エリアだというふうな考え方、それから、将来的に美祢地区の中学校、小中学校の配置っていいですか、統廃合等を考えたときには、この辺が適地じゃないのかってということで、いろいろな意見があるやに聞いております。

そこでお聞きをするわけですが、この債務負担行為を認めれば、やはり後には戻れないっていうか——ところだろうというふうに思うわけです。

そういうことを前提に、消防長に私、お聞きする気はないんです。教育長っていいですか、教育委員会にお聞きをしたい。

今申し上げましたような、学校関係の今後の統廃合とか将来像を考えて、教育委員会としては異論はないのかどうか、多少はお聞きしているところもあろうかというふうに思うんですが、確認をしておきたいというふうに思うんですが、意見がまとまっておれば答弁を願いたいというふうに思います。

○委員長（猶野智和君） 岡崎教育長。

○教育長（岡崎堅次君） 安富委員の御質問にお答えしたいと思います。

今、御指摘のように旧大嶺高校跡地について、文教ゾーンというか、そういう考えもあります。

この消防防災センターの建設に関して、教育委員会として考えたわけですが、先ほどの委員会でも説明いたしました。今後、大嶺小学校等の移転等が——移転というか、建てかえ等がある場合には、これからの校舎のあり方としては、小中学校一貫校という形で進めていくのが、これからの学校としての方向性だろうというふうに思っております。

小中一貫校のあり方として、三つの形があるという話をさせていただきましたが、他の市町の様子等を調べてみますと、小中一貫校の機能が十分発揮できるのは、施設一体型でないと、なかなか小中一貫校のよさが出ないという状況を把握しております。

となると、今ある旧大嶺高校跡地に、もし今後、大嶺小学校が移転をするということになれば、それは施設併設型という形になって、小中一貫校の機能が著しく望めないというところがあります。となると、教育委員会としましては、ぜひとも小中一貫校を進めるに当たっては、施設一体型を今後考えていきたいというのを強く望んでおります。

つまり、大嶺中学校の敷地内に、壁を破って一つにするというのは難しいでしょうから、上履きのまま行き来のできる渡り廊下とでつなぐような形での、施設一体型の小中一貫校が望ましいというふうに思っております。

それと、中学校の——旧大嶺高校跡地に防災センターができれば、委員が御指摘された——前回御指摘されたようなサイレンとか、防災ヘリの不安というものはゼロではないと思いますが、逆にメリットとして、今、防災教育がすごく重要視されております。そういう面で、学校の近くに防災センターがあるということは、防災教育の面で、体験的な学習を含め、学習の幅が大きく広がるメリットもあるというふうに、教育委員会としては考えております。

ということで、旧大嶺高校跡地の消防防災センターの建築については反対はしておりません。

以上です。

○委員長（猶野智和君） よろしいですか。ほかにございませんか。岡山委員。

○委員（岡山 隆君） 関連ですけれども、今、教育長のほうで小中——今後統廃合

によって、美祢地域全域におきましては、これからの小中学校の生徒の減少に伴って、もう一つになる可能性というのが10年のちには起こってくるような、そういった生徒数の減少が見られます。

そういった面で、今後そこに、大嶺高跡地に防災センター——命を守ってくれて、みんな大事なと思ってますけど、そういったところの小中一貫の校舎を、今後の一貫というか、まだあれですけど、そういったところを今まで市長、副市長を含めて、こういった協議というのを、今まで相当数行ってきたのかどうか、その辺についてちょっとお伺いしたいと思います。

○委員長（猶野智和君） 篠田副市長。

○副市長（篠田洋司君） 岡山委員の御質問にお答えしたいと思います。

市長、副市長協議、また関連部署との協議でございますが、消防からはその都度、市長、副市長協議は行っております。

あと関連部長等との会議、調整でございますが、庁舎の本庁舎整備基本計画——基本構想策定前にも全体会議を行っておりますし、延べ関連部長会議としては4回行って、その都度意見調整、また意見集約を行ったところでございます。

以上でございます。

○委員長（猶野智和君） 岡山委員。

○委員（岡山 隆君） 4回程度されたということで、それが内部統制をしっかりと行っていく上において、ガバナンスですね、それで本当に十分であったかどうか。

それで今回、債務負担行為として、消防センターの1億円がついてきてるわけですね。本当にそれでよかったんだろうか。

それで今後、学校の今後の集約化、そして、消防防災センターのある程度近くに建設ということで、これで住民の方がさまざまな御意見を聞きながら、問題ないと言われればいいし、また、安全性の面において、いいだろうという声がたくさん出れば問題ないんでしょうけれども、そういったところについては、教育と防災がもう近隣にある。教育長もそれは——それで教育環境においては、いいところも言われてましたけれども、それについて、まだまだ十分にその辺がされてるかどうか、ちょっとその辺がどうかという視点がありますけど、その辺についてはどのような御見解ですか。

○委員長（猶野智和君） 篠田副市長。

○副市長（篠田洋司君） 岡山委員の御質問にお答えしたいと思います。

議論の過程、コンセンサスを得る過程を、もうちょっと御説明させていただきたいと思います。

軸足をどこに置くかということで、いろいろ議論は分かれるところだと思いますが、まず消防新庁舎の必要性につきましては、現庁舎では老朽化等に伴う耐震性の問題、また厚狭川に近いことから浸水による消防機能のリスク、そして、消防機能維持のリスク、そして、大規模災害対応の問題など、現庁舎ではさまざまなリスクがあるということで、新庁舎建設の必要性については、すぐに合意形成を得たところでございます。

次に、新庁舎に——消防の新庁舎に、どういう機能を持たせるかということで、十分議論を重ねております。

一つが、老朽化への対応と耐震性の確保、そして2点目が災害活動拠点としての機能、そして高度情報化機能、4点目として防災教育訓練機能、5点目として職員が能力を発揮できる機能ということで、次に、機能を発揮できる場所はどこかというところでございます。

美祢市の中心部で、本庁舎に比較的近いところで、河川氾濫等の危険性がないところ、なおかつ市有地ということになれば、いろいろ議会の中でも御議論いただいておりますが、旧大嶺高校か旧アリエスクローリング山口跡地になろうかと思っておりますという意見が出ております。

旧大嶺高校は高台にあるということと、グラウンドがヘリポートになっております。消防団の訓練用地としても可能だということと、あと旧大嶺高校の体育館も、十分、大規模災害時には避難場所としても使用できる。なおかつ、自衛隊の活動拠点にもなり得る。また、あわせて、行政課題であります旧大嶺高校の校舎の解体の問題と行政課題の解決にもつながる。

そしてなおかつ、その解体費用も緊急防災・減災事業債の対象となるということから、財政的にも非常に有利だということで、職員の十分な理解を得た上で、このたびの消防新庁舎の建設の合意形成は十分とられているというふうにお答えしたいと思います。

以上でございます。

○委員長（猶野智和君） 岡山委員。

○委員（岡山 隆君） 今、割合詳しいところを副市長は説明されました。

それで、今後は市民の皆さんにわかりやすいように、また、今されましたけど、特に地域住民の皆さんが、防災へりとかがきて、学校教育環境の件、またその辺の場所をどこにするかなどで、メリットとそしてデメリット、この辺をしっかりと包み隠さず、しっかりつくり込んでいって、説明を、私はしていくことが重要ではないかと、このように思ってます。

今後、そういった面においては、しっかりと情報開示をされながら、もしそういう形で行うのであれば、市民への情勢と信頼をどうしても必要であるということを私は訴え続けていただきたいと。納得するような形での説明が、これからの執行部の大きな責任であり使命だと思っておりますので、この辺についてよろしくお願ひしたいと思います。

○委員長（猶野智和君） 篠田副市長。

○副市長（篠田洋司君） 岡山委員の御意見にお答えしたいと思います。

市民への周知とか市民の皆様には十分なコンセンサスを得るっていうことは必要なことですので、機会を通じて、十分アナウンスしてまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

○委員長（猶野智和君） ほかにございませんか。竹岡委員。

○委員（竹岡昌治君） 少し、関連した質問を申し上げたいと思いますが、初日の本会議場で、消防長と教育長にお尋ねをしました。そしたら、どちらの返事も、それぞれ自分の立場からの御意見をいただきました。もう一つ上から議論したいなと思ってたら、今副市長がおっしゃいましたんで、少し関連したことも含めてお尋ねをしたいと思うんですね。

総務民生委員会の席で、財政計画のいわゆる裏づけと申しますか、そうした中で、この庁舎を中心に、このまちを一体どういうふうにゾーニングされるお考えかというお尋ねをしまして、先ほど資料が届きました。

事務局のほうで、もしわかれば。質問の7項目の——ゾーニングは最後だったかもしれません。ちょっと起こしていただければと思うんですね。

7番目に、今送られました7番目の、いわゆる本庁舎を中心とした市街地形成に係るゾーニングの計画ということでお尋ねをしたと思うんですね。そうしますと回

答は、どうみてもゾーニングをされたという形跡が全くないんですね。

そこでまず、消防署の跡地はどういうふうにお考えになってるのか、それから、将来的に、今教育長がお話をされました小中教育、いわゆる私は教育ゾーンと申し上げたんですね。それが一体、将来はどこを考えておられるのか。

○委員長（猶野智和君） 竹岡委員。ちょっと今、資料のほうは執行部のほうに流れない状態なので、1回ちょっと休憩入れていただいて、そのあたりの調整をさせていただきませんかでしょうか。

ここで、暫時休憩いたします。

午後1時29分休憩

-----  
午後1時34分再開

○委員長（猶野智和君） 休憩前に続き、会議を開きます。竹岡委員。

○委員（竹岡昌治君） どこまでどうしゃべったかわかりませんが、消防署が移築すること、それから、先ほど説明がありましたが、必要性も、それから移転も、それから機能も、別段反対することは全くありません。

ただ、場所について、いかなものかなという議論をしていきたいというためにですね、市全体のゾーニングと言っても、恐らくされてないだろうから、少なくとも庁舎、消防署が移転をするその跡地の利用をどうする。本庁はもう建てるという方針で進んでおります。

ならばですね、この中心地を、どのようなまちにするかっていうゾーニングは、当然あると思いますし、それから、計画を練られるとき、一番大事なのは総合計画ですが、いろんなまちづくりの計画を組まれる表裏一体となるのは財政計画なんですね。そこで、私はどういう、財政計画を立てられるときに、ゾーニングされたんかというお尋ねをしました。

ところが、回答は皆さんが今ごらんになったように、財政計画の10ページをごらんくださいって言っても載ってません。

普通財産の売却貸し付けのことは9ページです。あえて10ページって書かれたのかわかりません。私が持つてる資料では9ページにあります。10ページにはありません。

回答そのものもお粗末ですが、読んでみましたら、私の9ページのところを讀ん

でありますが、「普通財産の積極的な売却、貸付を推進します」。これで計画って言えます。

まず、消防長にお尋ねをしたいんですが、消防署を移転された跡地利用、それから、丸和も含めて、この庁舎を建てたときの、これは副市長だろうと思うんですがゾーニング計画、それからもう1点は、教育長が先ほど、いや教育委員会としては反対しませんとおっしゃったんですが、将来の美祢市の教育ゾーン、私が初日にも申し上げました。もし小中一貫するならば、将来的には美祢地域が一本になれば66%ぐらいの生徒が来ますよと。ならば、その横に給食センターをつくったりしたほうがはるかにいいんですが、教育委員会の見解は、工業団地が最適だという、新聞紙上では出ております。まだ私たちは、何の説明も受けておりませんが、新聞紙上ではそう出ております。

そうしますと、一体どんなまちをつくろうと考えているのか。あるいは行政コスト、どのように引き下げようと考えておられるのか、さっぱりわかりません。

例えば、小中が一緒になって、給食センターがそこにあっただけでも、相当な行政コストは、今から何十年って下がっていくんですよ。そのことすら何も考えてないということが、どうも見受けられますね。

我々は——誰か、皆さんお聞きになってますか、給食センターが工業団地が最適だと。どこの工業団地か知りませんが、そういう新聞紙上で聞いている程度しか、私たちはわかっておりません。

したがって、消防長、教育長、副市長、先ほど申し上げた質問に対して御答弁願いたいと思います。

○委員長（猶野智和君） 松永消防長。

○消防長（松永 潤君） 竹岡委員の御質問にお答えをします。

現消防庁舎、消防本部庁舎が移転をした場合の現消防庁舎の利用についてであります。

これにつきましては、先ほど副市長が申されました会議の中でも、いろんな議論をしてきたわけですけど、現在の消防庁舎が移転をするのは、計画で言えば平成33年度中、34年の3月となっております。これから計画をしていく中で、現消防庁舎の位置は大変いい土地、場所にあるという認識で、さまざまな可能性を探りながら方向性を決めていきたいというふうな、市の部長の会議の中では、そのよう

な方向性であったものと考えております。

それと1点ほど、将来ビジョンについて今までお答えをしておりませんでした。私は市長、副市長、先ほど説明がありました会議の中で、消防本部としての将来のビジョンについてお話したことを少しつけ加えさせていただきますと、消防本部としては、中心市街地を見おろす高台の消防庁舎、これは防災拠点ですが、市民の皆さんが見やすい環境にあることは、市民に安心感を与え、安全・安心なまちのシンボルになるというビジョンを持っております。

あわせて、先ほど副市長が申されましたが、跡地の有効活用として、現在の大嶺高校舎は、古い建物がある状況で、防災面について住民の方が不安を持たれております。消防庁舎がこちらに建って解体等を進める中で、今住民が持たれている不安については解消できるものと考えております。

以上です。

○委員長（猶野智和君） 岡崎教育長。

○教育長（岡崎堅次君） 竹岡委員の御質問にお答えいたします。

今後、美祢市内の小中学校をどういうふうにしていくかという将来像のお尋ねだったというふうに思います。

今後は施設的なもの、通学路とか老朽化に関して校舎の建てかえというのは、大変経費のかかることなので、学校運営上の考えというか、今度、美祢市教育振興基本計画が31年度で終わり、32年度から新しく策定をしております。

その上で、今後の美祢市の教育のあり方を盛り込んでいきたいなというふうに思っております。

その中で、今私が持っている将来像というかビジョンですけれども、今、各それぞれの学校がコミュニティスクールという形で、各中学校区で、拡大の学校運営協議会というものを開いております。この拡大の学校運営協議会というのは、小中学校の9年間の教育をしっかりつなげていこうと、9年間で、目指す子どもを育てていこうというものでございます。

その中で、小中一貫校という視点から見ていた場合に、美祢地域については、大嶺地区、厚保地区、於福地区、伊佐地区。それから秋芳地区、それと美東地区、それぞれが小中一貫という考えのもとにやっていく。で、実際、施設一体型っていうのは美祢市内には今ございません。一番、小中一貫校に近いのが、美東の大田小と

美東中、これが併設に近いというふうに捉えております。

今後、そのコミスクで立ち上げております学校運営協議会を中心母体としながら、小中一貫校をどういうふうな形でできるか、併設型であれ、分離型であれ、どういう形でやっていくのが、小中学校の今後のあり方なのかということの研究しながら、今後進めていきたいというふうに思っております。

今現在、大田小と美東中については併設型ではありますけれども、どういうふうな取り組みができるかという課題を投げかけて、また新しい基本計画ができる一つの材料にしていきたいということで、現在動いているところであります。

以上です。

○委員長（猶野智和君） 給食センター……。

○教育長（岡崎堅次君） 給食センターについてであります。

この間の給食センターの導入調査において、工業団地がふさわしいということが出ておりましたけれども、教育委員会としましては、もし今後、大嶺小学校を大嶺中学校敷地内に建てることのできるのであれば、給食センターも大嶺中学校敷地内に建てること、竹岡委員が言われる六十何%の給食が、配送が容易になるということで、具体的なことを言っているのかよくわかりませんが、そこにスペースがないと、なんぼ夢の青写真焼いても、それが描けるかどうかわかりません。

給食センターも大嶺中の敷地内に入るかどうかの検討も重ねました。そうすると、テニスコートがかなり大きなスペースがあるわけですが、そこに、給食センターの広さから言ったら入ることがわかりました。

そこで、防災センターができた場合に、今ある旧大嶺高のテニスコートやプールのあたりを整地して、そこにテニスコートを移転する。で、テニスコートのところに給食センターを立てることが行政コストの一番のメリットがある方法だなど。

それを今、進めておりますが、これに関してクリアしなきゃいけないものが幾つかありまして、今それを何とかクリアできないかということで動いてるわけですが、一つは、給食センターは工場であるという扱いになるということで、それが大嶺中学校に併設という形でできるのかどうか。これが一つクリアしなきゃいけないところであります。

もう一つは、高台にあることから、水道の圧力というのが十分確保できるのかというところが、もう一つクリアしなきゃいけないところであります。

もう一つクリアしなきゃいけないものがあつたと思うんですが、ちょっと今思い出さないんですけども、そのあたりのことを、一つ一つクリアできるものがあればして、竹岡委員が言われるように、行政コストの図れる給食センターの場所も視野に入れながら検討していきたいというふうに思っております。

以上です。

○委員長（猶野智和君） 竹岡委員。

○委員（竹岡昌治君） ちょっと中心市街地のゾーニングについてお答えいただく前に、今消防長がおっしゃったとおり、私もやはり市内が一望できるところが一番いいなと思ってるんですよ。だったら、だったらですよ。こちらの下村の側の高台でも十分僕は見えると思うんですよ。

教育ゾーンは、将来、今おっしゃったようにいろいろな問題はあるけど、それをどうクリアしていくかっていうのは、今から皆さん方が御苦労されることですが、いわゆる——何が言いたいかと言ったら、全くゾーニングしてない。自分の屋敷に、ここがちょうど空いてたから、ここに蔵を建てましょう、ここは空いてたから、ここに母屋を建てましょう。そんな計画なんですよ。

だから、最初から、どこにどういう屋敷を、うまく活用して、そして道路と、どう面して、日差しがどうだと、やっぱりそうした環境づくりをするのが普通じゃないんですか。一般の家庭でも、それぐらいのゾーニングをしながら考えていくわけですよ。

にもかかわらず、行政は余りにも——そりゃあそれぞれの課からすれば、余り苦労しないで建てられるところが一番いいのはわかります。余りにも安易にまちづくりを考えておられるんじゃないかなっていう気がします。あえて苦言は呈します。その上でちょっと副市長の答えを聞きたいと思います。

○委員長（猶野智和君） 篠田副市長。

○副市長（篠田洋司君） 竹岡委員の、どんなまちをつくるのか、行政コスト削減をどう考えてるのかという御質問にお答えしたいと思います。

おっしゃるとおり、今からまた、今までよりもなお、まちづくりする観点からも、今の社会情勢、日本の将来、地域の将来の人口等を見据えたときに、本当にゾーニングは、これまで以上に大事になってこようかということは、同じ考えでございます。

やはり公共施設は、今後いろんな部分で縮小に入ってます。縮小に入るけど、充実するんだということが必要だろうと思います。いわゆる縮充という考えが必要だろうというふうに考えております——思っております。

現在、いわゆるゾーニングなんですけど、このゾーニングするに当たっては、当然、地域公共交通網形成計画とか、当然、都市計画マスタープラン、公共施設等総合管理計画とも合わさった形でのゾーニングを進めていかなければなりません。

したがいまして、現在では——現在、10月26日からが策定業務でございますけど、今年度、美祢市都市地域拠点活性化計画策定業務ということで、これの、いわゆるゾーニングに取り組んでいるところでございます。

当然、その中で、消防の跡地、それらも含めて、この中心市街地をどうするのか、どうゾーニングしていくかということに、今現在取り組んでいるところでございます。

この策定業務の履行期間が、2020年3月19日でございます。したがいまして、消防の新庁舎と同時進行ではございますが、ゾーニングに向けて、きちんとした中心市街地を、形成に向けて取り組んでいるということをお答えさせていただきたいと思っております。

以上でございます。

○委員長（猶野智和君） 竹岡委員。

○委員（竹岡昌治君） 考え方はわかるんですが、私が先ほども申し上げたように、一軒の屋敷と考えるとゾーニングしたらどうかというお話をしました。

もう既に、例えば、教育ゾーンにしたらいいなあと皆思っているところに、違うものがぺたんとかっついた。おってもらったほうがよかったなと思うものは、おらんようになったりとかなると思っております。

一番危惧してるのは、今の状態からいきますと、今度は別館もどうなるかわかりません。スクラップしていくと、耐震がなければ崩さざるを得ないだろうし。そうしますと、この庁舎を中心に何が残ってるんですか。

建物が——何か——言うたらいけんから言えませんが、別に職業をどうこう言ってるわけじゃないです。ないですが、余り、これを中心にしていいお店がありますか。あるいは経済が動いていますか。駐車場ばかりになるんじゃないかなと危惧しています。

今後、自治体経営ということが大きく取り上げてくるだろうと思います。自治体経営だけじゃなくて、今度は経営の競争が始まると思います。全く、零細企業同士の競争と同じだと思うんですね。日本の零細企業は、もうほとんどが自己資本比率が低くなり、その上で一所懸命稼ぎながらやってるっていうのが自治体なんです。全く同じような状態が地方自治体なんです。

それらの競争が——経営競争が始まるという中で、なぜ将来的にコストが削減できる方法等、計画をつくる前から、これだけはちょっと、将来のこともあるから、こうしておこうというお考えはないんですか、発想的には。そこだけお尋ねします。

○委員長（猶野智和君） 篠田副市長。

○副市長（篠田洋司君） 竹岡委員の御質問にお答えしたいと思います。

自治体経営というお話がございました。私は、自治体経営っていうよりも、もう地域経営をどうするんだというふうに捉えております。

ただ、確かに、このまちをどうしていくんだということは、地域経済をどうするんだということも踏まえて、我々は研さんを積まなければならないっていうことは、もう十分認識しておるところでございます。

このたびの消防の新庁舎建設でございますけど、やはり住民の安全・安心を守るためには、もう待ったなしだということで、消防の位置はベターな位置だというふうに、今捉えているところでございます。

その上で、本来であればゾーニングを先にして、消防の位置を、新庁舎を決めるべきだという御意見もございますが、現時点のこの状況下では、今の新庁舎、消防の新庁舎は大嶺高校で、先ほど教育長も申し上げましたけど、将来教育ゾーンとして捉えたときにも、どうなんだということも検討を進めているところでございます。

以上でございます。

○委員長（猶野智和君） よろしいですか。ほかにございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（猶野智和君） それでは、質疑なしと認め、質疑を終わります。それでは、本案に対する御意見はございませんか。竹岡委員。

○委員（竹岡昌治君） 私は、先ほどから議論いたしましたように、消防署が建てかえをしなくちゃならん、これも理解できます。それに別段反対はしません。移築されるのも反対しません。それから、新しい機能を持たせるということについても賛

成なんです。

ただし、場所については、幾ら考えても、今それをやってしまうと、後からしまったと思わざるを得ませんし、私自身からしても、消防長が言われたように、高台というのは非常に私も関心持ってるんです。

例えば、雲海公園の近くを——敷地はないですよ。ないですが、例えばそこならば奥分、重安、伊佐、中心市街地全部見える。そうしたの、探せば僕はあると思うんですね。なぜ大嶺高にこだわっているか、ちょっと私もわかりませんが、教育長が将来的な教育方針としても、いやもう賛成なんだとおっしゃったんで、言うことありません。ただし、私は反対をいたします。

以上です。

○委員長（猶野智和君） ほかにございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（猶野智和君） それでは、これより議案第122号を採決いたします。  
竹岡委員。

○委員（竹岡昌治君） 採決には参加いたしません。

〔竹岡昌治君、徳並伍朗君 退席〕

○委員長（猶野智和君） 改めて、それでは、これより議案第122号を採決いたします。本案について、原案のとおり決することに賛成の方の挙手を求めます。

〔挙手者挙手〕

○委員長（猶野智和君） 挙手多数であります。よって、議案第122号は原案のとおり可決されました。

以上をもちまして、本委員会に付託されました議案1件につきまして審査を終了いたしました。

その他委員の皆さんから何かございましたら御発言をお願いいたします。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（猶野智和君） ないようでしたら、これにて本委員会を閉会いたします。  
御審査、御協力まことにありがとうございました。お疲れ様でございました。

午後1時59分閉会

上会議の顛末を記載し、相違ないことを証するためここに署名する。

平成30年12月19日

予算決算委員長